

## 会議結果報告書

1. 会議名 令和4年度 第5回 印西市環境推進市民会議
2. 日時 令和4年9月16日(金) 9:30~11:30
3. 場所 市役所会議棟 204 会議室
4. 出席委員：岩井会長、川井委員、小山委員、白川委員、関根委員、橋本委員、平林委員、  
福井委員、村形委員、山田委員、吉村委員、渡辺委員  
事務局：環境保全課 飯島課長、海老原保全係長、清田主査補
5. 傍聴者 0名
6. 配布資料  
・会議次第
7. 内容
  - (1) 開 会
  - (2) 会長挨拶
  - (3) 議 事
    - ①視察研修の報告について  
—八千代市ほたるの里について参加委員より報告—  
会 長：今の説明について、ご意見ご質問等があればお願いします。  
委 員：八千代市では、ホテルが観察できた数は10前後ということだった。改めて印西市は自然環境が豊かだと感じた。自然発生するホテルがたくさんいる今の印西の自然を守っていかなければならないと感じた。  
委 員：八千代市では、多くの時間とお金をかけているにもかかわらず、自然発生をさせるのは難しいということであった。一度自然がゼロになってしまったものを戻すためには、大変な労力、お金、時間がかかるということがわかった。印西に残っている自然を守ることが大事だと感じた。  
委 員：谷津の耕作放棄田は木が生えてきており、ホテルがいなくなっている。多額の資金を投じても元に戻らないということを考えると、長い目で見て、今から保全に向けた取組を考えて欲しい。日本の生物多様性、里山は、人の手が入ることによって保全されていくものであるため、守っていこうという意識だけでは守れず、どのように手を加えていくかという保全システムを作ることが大切。  
事務局：ホテルの保全に関して現在市が行っている取組を紹介すると、今年度は、保全計画を立て保全のための方策を立て、次年度以降に保全策を実施していきたいと考えている。  
会 長：八千代市ほたるの里は、長い時間をかけ苦勞しているのに、定着しないことを考えると、印西市も資金を投じて保全策を実施するということだが、本当に上手くいくのかと感じた。

委員：八千代市でホタルが定着しないのは、巻貝が好む環境ではないということが原因と考える。ホタルは、そこでエサとなる巻貝をホタルが好むということと、巻貝がホタルを好むということの両方が必要になってくる。

会長：他になければ、八千代市はたるの里については以上とし、続いて北総クルベジについて説明をお願いします。

—北総クルベジについて、参加委員より報告—

委員：今の説明について、ご意見ご質問等があればお願いします。

委員：写真を見てのとおり、この取組はただ野焼きをしているようにも見えてしまうが、環境保全活動団体で困っていることの一つとして、保全作業で伐採した枝等の処分である。この取組は、燃やしたあとに水をかけて炭にするということがポイントであり、それによるCO<sub>2</sub>の固定に加え、できた炭を農家に提供したりすることで2度おいしい取組と言える。効果は林野庁にも公表されているが、里山保全活動団体に浸透していないのではないかと考える。システムとしてしっかり構築されると良いと思う。

委員：この取組は、燃やしていることには変わらないため、本当にCO<sub>2</sub>削減につながるのかどうか理解できない部分もある。

委員：視察の内容だと、炭にする際に全てのCO<sub>2</sub>を出すのではなく、一部のCO<sub>2</sub>にとどまるという話であり、効果を数値化できるということだった。

会長：市民が気軽にできる取組ではないと感じた。視察当日に委員から意見があったと思うが、新しくできるクリーンセンターにこのような炭化設備を作ってもらうということは良いアイデアだと感じている。ただし、新しいクリーンセンターの計画は既に進んでいると思うため、今から計画を変更するなどできるのか市で確認して欲しい。

事務局：仕組みや実施の効果、有効性などを調査、整理した上で、検討させていただきたい。

会長：印西市は月間5000万tほどごみを燃やしており、うち7%、30万tほどが木や竹と言われている。これを全て炭にできれば素晴らしい取組とを感じるが、先ほどのとおり新クリーンセンターの計画は進んでしまっているため、市でよく検討して欲しい。

委員：現在のクリーンセンターの敷地内に設置することはできないが、地域振興策の事業内容を現在検討中であり、そちらでクルベジを検討できる可能性はあるとの話を聞いた。

会長：他になければ、視察に関しては以上とする。

②環境基本計画の推進について

—事務局説明—

会長：今の説明についてご意見ご質問等があればお願いします。

委員：環境カレンダーの作成時期について、令和5年度中に議論をして、令和6年のカレンダーを作るということについては賛成したい。プロジェクトチームを作るのではなく、市民会議全体の検討事項とするという事務局の提案にも賛成したい。事務局の提案では広報の見開き4ページに12か月分ということだったがこれでは内容があまりにも盛だくさんとなってカレンダーがごちゃごちゃになることが心配である。

委員：見開きで6ヶ月分というのは、他の環境情報も入れるとスペース的に厳しいと感じている。毎月の広報に1枚カレンダーを織り込むということをイメージしていた。

事務局：手間とコストの関係で、毎月の広報に1枚折り込むことは現実的ではない。

委員：年1回限りではなく、見開き4ページを4か月分として、年3回ということではどうか。

事務局：コストが3倍になるが可能ではある。この形ではなく、通常のカレンダーを印刷する形ではどうか。

委員：可能であればその方がいいが、コストがかかるのではということから広報への折り込みを提案した。しかし、通常のカレンダーとしての印刷も選択肢として考えられるのであれば、検討して欲しい。

会長：カレンダーの話についてはサステナブルグループの提案であるが、そのほかのグループの方は賛成ということで良いか。

委員：カーボンニュートラルグループとしては、「見える化」を推進したいと考えており、カレンダーに日々のCO<sub>2</sub>削減効果などを記入するなど、活用できるのではと考えている。また、費用面の話が挙がったが、カレンダーの有効性を考えた上で、予算化をするという流れが良いのではないかと。

委員：内容については、3つのグループがあるので、割り振りをして各グループの内容を入れ込めると良い。

委員：双方が連携すればいいのではないかと。カーボンニュートラルグループが推進したい「見える化」を、カレンダーを用いて実現できれば、一つの施策になると考える。

委員：全体で進めるということは賛成、ただしカレンダー作成の事務はサステナブルのグループで行いたい。当初12か月分を全戸配布とイメージしていたが、予算的なものは事務局に調べていただきたい。

委員：全戸配布にこだわる必要はないのではないかと。周知は広報などで徹底し、公共施設で配布する形も可能ではないかと。

事務局：この場合はこの金額という形でいくつか候補を提示させていただきたい。

会長：カレンダーについては以上とさせていただく。以前の会議でデータセンターに話を聞く機会を設けて欲しいという話があったがそれについてはいかがか。

委員：印西市はカーボンニュートラル宣言できていないが、データセンターの電力使用量の見直しなどを考えてのことであったかと思う。データセンターについては、国の基準などにに基づき計画していると思うため、そういったことについて聞いてみたい。

委員：データセンターを作るにあたっては、PUE という脱炭素に関する基準値があり、この値を守らなければ事業を継続できないとされている。各社データセンターはCO<sub>2</sub>排出量を見える化し、把握している。また、自家発電設備を再生可能エネルギーで設けるなどしている。市からデータセンターに対し見学会を希望すれば、話を聞く機会を設けることができるのではないかと。

事務局：何を聞きたいかにより、窓口は変わってくると思われる。

委員：データセンターの設備の見学会を希望したい。

委員：どのような環境対策を取っているかということを知りたいということである。各データセンターの担当者に来ていただき、話を聞く機会を設けることも考えられるのではないかと。

会長：データセンターがどのくらいの電力を使い、そのうちどのくらいを再生可能エネルギーで賄うのか、CO<sub>2</sub>をどれくらい排出するのかということについては、市で把握していなければならない。

委員：そういった意味では、里山保全の観点から、例えば、浸透性のある施設としているか、環境に配慮しているかということも含めて聞きたい。

会長：データセンターの話は以上とする。これより、先程の環境カレンダーも含め、各グループで実践したい取組を検討する時間としたい。

事務局：検討していただいた上で、カレンダー以外で何か実践したい取組があれば、次回の会議でどの取組から始めるかといった優先順位を決めていただきたい。

—各グループで検討—

事務局：年度当初にお配りしたスケジュールとは変わってしまうが、市民会議としての取組内容を検討する時間が必要であるため、来月・再来月についても例月通り会議を実施することとし、引き続きグループごとの取り組み内容について検討していただく時間としたいがいかがか。

会長：賛成する。もし可能であれば、先程のデータセンターに話を聞くということについても、次回以降の日程で検討していただければと思う。

### ③その他

事務局：市民アカデミーより相談があり、社会貢献やボランティア活動を行っている団体などを卒論のテーマとして扱うことから、環境に関して活動する市民会議にインタビューしたいということであった。可能であれば、次回会議終了後にインタビューの時間を設けたいと思うがいかがか。

会 長：了解した。

事務局：それでは、次回の会議は通常的时间より早めに閉会し、会議終了後に30分～1時間程度市民アカデミーのインタビューの時間を設けさせていただくこととする。可能な方は同席をお願いする。質問内容などについては、市民アカデミーと調整の上、事前にお知らせする。

(4) そ の 他

— 一次回の会議開催予定、委員報酬について事務局より説明—

(5) 閉 会

以上

令和4年度第5回印西市環境推進市民会議の会議録は事実と相違ないことを承認します。

令和4年10月21日

印西市環境推進市民会議 委員 白川 卓生

印西市環境推進市民会議 委員 関根 正明